

# ちゃんねる

平成 29 年度 第 3 号 2017/12/8

## 平成 29 年度秋季研究大会を終えて

太田南小学校 進藤 正弘

平成 29 年 10 月 24 日(火)、南外中学校を会場に「平成 29 年度視聴覚教育研究大会」が行われました。途中、講演講師の先生の大曲到着が遅れるというハプニングもありましたが、大会運営に大きな支障もなく滞りなく終了できましたことは、南外中学校さんをはじめ、各部門担当者、研修会Ⅰ・Ⅱの講師の先生、そしてご参会くださった会員の皆さんのおかげと深く感謝申し上げます。

授業演示は、2年生の美術「鑑賞」でした。3枚の絵画が大きなスクリーンに鮮明に投影され、それを鑑賞した生徒からは感じたままの言葉が発表されるなど、題材のねらいに迫る素晴らしい授業でした。雄勝出張所指導主事の北林先生からは、「教科のおもしろさを感じながら指導することの大切さ」や「本物と同じ形で提示できる事を通し、絵に浸らせ個人としての意見を持たせることの大切さ」についてご指導をいただきました。



午後の研修会Ⅰは、赤堀侃司氏による講演「プログラミング教育の展開と課題」が行われました。プログラミング教育の背景には、AI(人工知能)の発達により、手順通りの仕事はコンピュータに取って代われ、人間には気づきや創造性による新しい技術の開発が求められると予想される事にあるとのこと。また、プログラミング教育の目標としては、「どのような活動(動き)が必要で、どのように組み合わせ、どのように改善(修正)するかを論理的に考える力の育成にある」とのことでした。このプログラミング教育を小学校の算数・理科・総合で進めて行くには、教科の目標との合致が必要であり課題でもあるとのことでした。課題として「カリキュラム」「年間指導計画」「指導案」「教材」「カリキュラムマネジメント」「ICT環境」の不足があげられました。教育課程外の課題も教えていただきました。このほかにも「アンブラグドプログラミング」「STEM教育」「フィンランドメソッド」等々、沢山のことを教えていただきました。5月に拝聴した講演よりも丁寧であり、あの時よく理解できなかったことも今回の講演を聞いてすっきりしました。赤堀先生に講演をお願いして本当によかったと感じています。

研修会Ⅱでは、実技演習「レゴマインドストームEV3を使ったプログラミング教育」が行われました。プログラミング教育の背景と小学校・中学校での実際の活動について、簡単な講義と基本命令を教わった後、会員3人一組でプログラミングを行い、実際にロボットカーを作動させました。最終目標は会場に設置されたコースをロボットカーが障害にぶつからずに走ることでしたが、各班とも「プログラミング→実走→失敗→修正」をくり返しなが、ロボットカーを思い通りに動かす演習を行いました。全会員が目を輝かせながら夢中になって演習に取り組む様子に、研修会Ⅱも大成功だったと感じました。

今回の研究大会は、本研究会の新しい研究視点への取り組みとプログラミング教育に焦点をあてた大会でした。私自身、今大会は実りある充実した大会だったと思っていますが、会員の皆さんから寄せられた感想にも、研究大会の成果や賞賛の言葉がたくさん見られました。会員の皆さんに喜んでもらえる研究大会になり、本当に嬉しく思っています。



さて、今年度もあと4ヶ月となりました。会員の皆さんは日頃から授業での視聴覚機器活用を心掛けておられることと思いますが、今回の研究大会をバネに、より一層視聴覚機器の活用を各校で広めていただけますとともに、新たに研究視点として加えた「情報活用の実践力育成」についても追求していただけますようお願いいたします。また、来年度は新指導要領の移行期に入ります。新たな取り組みの年間指導計画作成・実施等で忙しくなることと予想されますが、その中であっても視聴覚機器の効果的な活用を進めていきたいものです。「使えばいい」というものではありませんが、視聴覚機器はこれからも、あらゆる教育の場面で大きな力を発揮し効果をもたらすものであることに変わりはありません。教育の中で効果的な視聴覚機器の活用を探る本研究会への期待もますます大きくなるものと思います。大曲仙北視聴覚教育研究会の更なる発展を期待しています。

## 授業提示、研究協議を振り返って

大曲小学校 岸 潤一郎

提示された授業は、日本及び西洋の同時期の絵画作品を比較鑑賞することで、造形感覚の違いや技法の共通性などに目を向け、対話的な学びを通して対象を深く見つめ感じ取ることをねらったものでした。本時の教材は尾形光琳作「紅白梅図屏風」、小田野直武作「不忍池図」、クロード・ロラン作「ナイル川から救い出されるモーセ」の3作品。視聴覚機器等の活用面からは、作品提示のためのパワーポイントによるプレゼンテーションや、グループ学習やそれを受けた全体の話し合いに役立てるためのホワイトボードの活用等がありました。



続く研究協議会では参観者を8グループに分け、以下の二つの視点で協議を行いました。

視点1 教師による視聴覚教材の活用はねらいの達成のために有効だったか。

視点2 情報活用の実践力は育成されたか。

生徒がそれぞれの造形感覚の違いや技法の共通性に気付くことができるよう厳選された作品教材。部分拡大にも耐えられる高画質データの使用。比較や拡大を効果的に提示するパワーポイントの活用。グループ学習のまとめを全体で共有し意見交換するためのホワイトボードの活用法等たくさんの成果があげられました。また会員それぞれの立場から、より主体的に絵に関わるための情報手段活用のアイディア等活発な意見交換が行われました。

グループ学習では鑑賞の視点を手がかりにして課題と真剣に向き合い、豊かな発想をもとに対話する姿が見られ、まとめのワークシートに一人一人が自分の思いをいっぱい書き綴っている姿も成果として上げられました。協議の視点2「情報活用の実践力の育成」は、協議会の視点としては初めて取り入れたこともあり、研究部として協議の行方を若干心配しておりましたが、会員においては日々の授業で日常的に行われていることとして捉えていただきスムーズな話し合いが行われたと思います。

南教育事務所仙北出張所北林悟指導主事からは、授業の指導助言に加えて、次期学習指導要領では情報教育がますます重視される位置づけが行われていること、プログラミング教育の展望、小学校段階でキーボード入力を確実に習得する必要があることなど多岐にわたる重要なお話をいただきました。会員一人一人がこの分野の発展に使命感をもって取り組んでいくことを期待されていると思いました。

授業を提示していただいた南外中後藤先生の美術教育に関する熱い思いに触発される形で会員一人一人の視聴覚・情報教育の見方が耕された充実した研究協議会となりました。

深く感謝いたします。